



重症者ホームひさやま「10周年開設祭」

パプテスト心身障害児(者)を守る会

愛の手を

第220号

発行責任者
 社会福祉法人 パプテスト心身障害児(者)を守る会
 重症心身障害施設 久山療育園
 重症児者医療療育センター
 理事長 宮崎 信義
 編集責任者 鍋山 泰三
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
 ☎(092)976-2281
 FAX (092)976-2172

「神の業に参与する」

理事/ミットレーベン・ネットワーク会長 伊原 幹治

糸賀一雄（鳥取、1914-68）は、1963年に重症心身障害児施設「びわこ学園」を開設しました。当時、重症児者を持った家では両親が高齢化し子ども世話ができなくなると、先行きを心配した親が子を殺す「親子心中」がしばしば発生していました。また、国会への陳情に対して、「国のために役に立たない者に大切な税金は使えない」という言葉が投げかけられました。そのような状況の中で、糸賀は「この子らに世の光を」当ててやろうというあわれみの政策を求めたのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。『この子らを世の光に』と述べています（糸賀一雄『福祉の思想』NHK出版）。

久山療育園の初代園長の川野直人牧師（長女Nさんも重症児）も、よくこの糸賀の言葉を引用していました。私たちはこの糸賀の言葉を久山療育園を通して実現していく使命を持っていると思っています。

そのために私たちは運動体として地域の重症児者を支援し、具体的には久山療育園の働きを通して、その輪を広げる活動を行っています。そこで皆様方には、「ネットワーク」の会員（賛助、一般、中高生）となっていただき、会が主催する学習会や行事などにも参加してくだされば幸いです。特に最近、月例や年末の街頭募金の参加者が少なくて困っています。そこで年に1回でも、ご参加いただければ幸いです。できたらお子（孫）様とご一緒に。月例は毎月第4土曜日の13時～15時に、年末も同じ時間帯に中央区天神の西日本新聞社・大丸前で実施

弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか。」イエスは答ええなくなった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」（ヨハネによる福音書 9：2-3）

ここで弟子たちが発した、障がいの原因は「本人にあるのか、それとも親のせいなのか」という問いは、当時の因果応報説にもとづいたもので、興味本位から出たものであり、弟子たちにとっては他人事でした。自分には関係がないというものです。それに対して、イエスは因果応報を否定した上で、そうではなく「神の業が現れるため」であると答えています。それは先程述べた糸賀の「この子らを世の光に」する、私たちの仕事を意味していないでしょうか。このことを通して、私たちは「神の業が現れる」業に参与することができるとは思います。

「久山療育園重症児者医療療育センター」を支援する重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」の源流は、1969年に生まれた「パプテストコロナー友の会」にあります。「パプテストコロナー」という名称からわかるように、その時には「久山療育園」はまだ存在しておらず、そこには近い将来に「コロナー」（障がい児者施設）を建設しようとする人たちの熱い願いがありました。その中心は全国のパプテスト教会で、その祈りによって6年後に久山療育園が生まれたのです。普通は施設が生まれてから後援組織ができるのですが、本体よりも先に「応援団」が誕生したところに、この団体の性格がよく表れています。そして開園してからは、今度はその成長を見守り、運動体として支援活動を始めました。また創立50周年を機に、閉鎖的な意味合いを持つ「コロナー」という言葉に代えて、重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」と名称を変更し、現在に至っています。この間の久山療育園に対する献金総額は1億5000万円を超えました。戦後、日本の障害児者教育を切り拓き、1946年に「近江学園（滋賀県大津市）」を開設した

理念と展望

「重症児(者)の現状と施策の動向」

理事長 宮崎信義

重症心身障害児(者)制度の歴史は、1963年に厚生省次官通達による児童福祉法一部改正(重症児療育開始)、1964年に全国重症心身障害児(者)を守る会結成、1966年厚生省次官通達で18歳以上の重症児も対象となりました。また1966年に国立療養所に重症児病棟が設置され、1967年には児童福祉法一部改正により「重症児の定義」がなされました。

在宅の重症児(者)施策では、1989年に「緊急一時保護」(後に「短期入所」と名称変更)制度が発足し、私的事由も対象になりました。在宅療育が1年を通して24時間求められるという困難な状況に光が当てられました。更に、1990年1月には「通園モデル事業」が全国5ヶ所で開始され、久山療育園も参加致しました。現在、「在宅支援の三本柱」とされている①通園事業、②短期入所事業、③相談支援事業が少しずつ整備されて参りました。しかし、最重度の重複障害を特徴とする重症心

身障害児(者)の死亡率はとも高い数値でした。久山療育園は、1976年(昭和51年)9月に50床で開設されましたが、乳幼児など児童中心で、呼吸障害やてんかん発作の重積で生命保持が危ぶまれる状況が続いていました。他の施設と同様に、重症心身障害児(者)医療が進歩し、療育や介護も洗練されていく中で「重症児(者)の命の尊厳」は一步步つ向上していった歴史は喜ばしいことだと思えます。

中国武漢市付近で2019年11月に発生が確認された「新型コロナウイルス(COVID-19)」は、世界中に蔓延し、2023年のジョンズ・ホプキンス大学等の統計では、感染者数累計(世界)が6億7657万149名、死亡者数累計(世界)は688万1802名とされています。同時期の日本における感染者数累計は3380万3572名で死亡

者数累計は77万4694名と報告されています。2020年4月7日に「緊急事態宣言」(1回目)が7都府県に発令(第一波)されました。以降、2024年1月19日に「第10波」と見られ、オミクロン株JN1の増加が報告されました。2023年5月8日に新型コロナウイルスが「5類」に移行し2年が経過しましたが、当センタ一の入所者からは死亡者が発生せず、また大きな集団発生もありませんでした。しかし、在宅のご家族から重症化や死亡を告げられた時は、本当に痛恨の極みでした。詳細は省きますが、以上のようにこの5年間は感染対策に集中してきた時期と言えます。

行政施策の動向

近年の重症心身障害児(者)に関連する行政施策と歴史を以下に俯瞰してみました。

令和5年4月に「こども家庭庁」が発足して2年が経過。主旨は、こども施策を一元的にまとめた「こども大綱」と「こども未来戦略」が、令和5年12月に閣議決定されました。令和6年6月には、児童福祉法の一部を改正する法律が成立し施行されました。令和6

年度障害福祉サービス等報酬改定では、「医療的ケア児」や重症心身障害児をはじめ、より専門的支援の充実を図り、児童発達支援・放課後等デイサービス、障害児入所施設における支援の充実が強調されています。また医療的ケア児の成人期への移行にも対応した医療的ケアの充実を図ることを明記しています。

今後の障害児施策について①全てのこども・家庭のニーズに応じた質の高い支援を届ける。②障害の有無に関わらず、こどもが共に育ち・暮らす環境づくりを進める。③制度の持続可能性を確保する(人材面・財政面)という視点から協議を行う。

障害児入所施設における入所支援・特に医療型障害児入所施設に於いて。①発達支援機能・医療的ケア児の判定基準についての研究成果を踏まえた支援。②自立支援機能・療養介護への移行を行う際の評価や協議。地域移行に向けた更なる支援。

医療的ケア児支援について.. 2023年では医療的ケア児は、2万382名に増加し続けています。このことから、医療的ケア児支援センター(都道府県)の設置が推進されて

います。令和7年全国重症心身障害施設協議会から

全国重症心身障害施設協議会は、令和7年5月22(23日)に長崎市で開催されました。協議会でも、厚生労働省障害福祉課の行政説明がありました。令和4年度の障害者総数は、1164.6万人(人口の9.3%)で、4.1%の増加率とのことでした。特に知的障害の方は126.8万人と増加していますので、新生児医療の発達や難病を克服しても、重度重複の障がいを負っておられる重症心身障害児(者)はむしろ増えていくと思われれます。厚生労働省は、障害福祉の報酬改定で地域移行の推進に重点をおいていますが、重症心身障害施設は多くの施設が在宅支援に重点を置きつつも、年長化や保護者の高齢化から施設存在は不可欠であることは依然として変わりありません。

一方で、「重症心身障害児者と共に」ある働き人の確保が困難な状況であることは全国でも変わりありません。協議会の重点であるシンポジウムのテーマも「重症心身障害の魅力」を現場から発信する(人材

確保の取組みから」と言う視点から協議と情報提供がなされました。重症児者医療福祉の要点は人材確保と人材育成であることが再認識されています。誠実な働き人が確保されることを願っています。

世界情勢との関連から

新型コロナウイルス感染症対策中においても、世界平和が危ぶまれる状況がありました。2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻が未だ終戦に至っていません。2023年10月からイスラム組織「ハマス」のイスラエル侵攻・ガザ地区の紛争、そしてイスラエル軍の侵攻により、2025年1月19日の発表では、ガザ地区で4万7000人以上が死亡し、更に1万人以上が瓦礫に埋まっていると推測されています。2025年1月19日にハマスとイスラエルの停戦(6週間)が合意されましたが、完全な平和回復ではありません。「重症心身障害児(者)を守る会」の憲章にも示されていますが、「決して争ってはいけない。争いの中に弱いもの生きる場はない」という言葉は真理だと思えます。

改めて久山療育園の設立理念に学ぶ

①「設立の目的」から:「重症心身障害児に愛の手を」↓在宅及び入所重症児者のニーズに聴く診療計画と実践。「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」↓「在宅支援センター」への医療支援。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」↓「在宅支援センター」の働きから福祉共同体の実現、地域医療連携へ。地域と協働した感染対策・防災計画(BCP・事業継続計画)の策定。

②「運営基本方針」から:「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならぬ」↓重症児(者)と共に生きるミットレーベン・ネットワーク・諸教会及び保護者会との協働によって園の正しい方向が維持される。新型コロナウイルス感染症時及び感染終息後を見据えて。

③「療育基本方針」から:「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職

際の協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならない」↓「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支える「QOL(生活の質・生命の質・人生の質)重視」。

おわりに

創立49年となる久山療育園重症児者医療療育センターの創立理念と展望を振り返りましたが、基本は「重症児(者)の命の尊厳」を守り、「生活の豊かさ(療育活動や交わり等)を具体的に推進していくことだと思えます。重症心身障害児(者)の健康が守られ、年長化していくにつれて、保護者様の高齢化が心配されます。地域の温かい支援を熱望し、地域との連携を進めて参りたいと思えます。



役員人事報告

5月30日(金)「第5回評議員選任・解任委員会」が開催され、次期評議員として以下11名の方々が選任されました。

評議員(敬称略)

林晃一、坂口繁和、森英行、才藤千津子、水野英尚、相模裕一、石橋大海、平川宣就、種俊策、間村史子、加山献

任期は2025年6月20日から、4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時(2029年6月)までとなります。

続く6月20日(金)「第1回(定時)評議員会」が開催され、次期理事・監事として以下の通り理事8名、監事3名の方々が選任されました。

理事(敬称略)

宮崎信義、岩永知秋、踊一郎、叶義文、伊原幹治、渡辺浩行、鍋山泰三、金子政彦

監事(敬称略)

樋口重登、柴田公文、堤 秀幸

任期は2025年6月20日から、2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時(2027年6月)までとなります。

理事長

6月21日(土)第2回理事会が実施され、宮崎信義理事長が選任(重任)されました。

任期は2025年6月21日から、2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結の時(2027年6月)までとなります。

人のからだと病気
第24回

「健康づくりとその取組み」

センター長／理事 岩 永 知 秋

■「久山町」が医学界で有名な理由

久山療育園重症児者医療療育センターに私が勤務を始めて6年目になりますが、この久山という名前は医学生時代から授業によく出てきました。医学者のみならず医学生の間でも有名なのです。なぜなら久山町は「久山町研究」によって、日本の医学界では「疫学」研究として有名だからです。近年、似たような疫学、あるいはコホート研究はいくつも出てきましたが、その先鞭をつけたのが久山町研究なのです。九州大学の久山町研究施設は、久山療育園から歩いて10分足らず、高橋池の向こう側のC&Cセンターの中にあります。

研究ではなく、ある地域に絞ってどのような病気が、毎年毎年のように変化していくのかを調べていくのです。

■久山町研究とは？

九州大学第2内科（現在、九州大学大学院病態機能内科学）教室は、1961年からこの久山町の住民を対象に脳卒中、心血管疾患などの疫学調査を行っています。1960年当時、日本の死亡統計では脳卒中がわが国の死因の第1位を占めていました。中でも脳出血（脳の血管が破れて出血する病気）による死亡率が高く、脳梗塞（脳の血管に血栓、すなわち小さな血のかたまりが詰まる病気）の12.4倍もあり、欧米と比較して非常に高かったのです。欧米の研究者たちから「本当なの？」と首をかしげて見られたそうですが、これを確かめるにも科学的なデータがありませんでした。そこで日本人の脳卒中の実態を解明しようと思ったのが久山町研究だったのです（久山町研究のホームページよ

■久山町研究の成果

1961年から追跡を開始した第1集団では剖検率80%で、脳出血による死亡率は脳梗塞のわずか1.1倍であることが示されました。つまり、それまでの死亡診断書に基づいた死亡統計は正しくなかったことが示されました。その後精度の高い追跡調査が行われていきます。これまでの追跡率は約99%で、行方が分からなくなつた人は数名だそうで

■「健康日本21」を存じますか？

健康増進とは1946年にWHO（世界保健機関）が提唱した「健康とは単に病気がない、虚弱でないというのみならず、身体的、精神的そして社会的に完全に良好な状態」という定義から始まっています。我が国ではこれを踏まえて、1978年から「国民健康づくり運動」が展開されてきました。高齢化や生活習慣の変化に伴い、わが国でもこの50年くらいに疾病構造が変遷してきました。近年、医学・医療の進歩により平均寿命が延びる一方で、健康寿命（介護を受けることなく自立して生活を送ることができ期間）が問題となってきました。生きがいを持って、楽しく毎日を過ごすことが重要視されるようになったことがわかります。その流れの中で2000年の第3次国民健康づくり運動は「健康日本21」と命名され、2012年に続いて2023年にはこの健康

り）。なぜ久山町なのでしょう。それは、久山町に住む人が全国平均とほぼ同じ年齢・職業分布を持っており、偏りのほとんどない平均的な日本人集団であるとされます。つまり、久山町の疫学を分析すれば、平均的な日本人の疾病構造を推定することができるというわけです。また、人口は近年約9000人で、時代が変わっても年齢分布は日本全国と大差がないことが確かめられています。私は2019年から「久山町国民健康保険事業の運営に関する協議会」のメンバーを務めています。その会議の中でデータの報告があります。2022年の久山町人口は9312人、平均寿命は男性80.7歳、女性87.2歳でした。

す。40歳以上の全住民を対象とした前向きな追跡（これをコホートと呼びます）研究であり、生活習慣の移り変わりの影響や、危険因子の変遷も推察することができると特徴があります。

最近では衛生・公衆衛生学や病態機能内科学の教室のほかに多くの教室から若い研究者が参加し、研究テーマを生活習慣病全体に広げています。2002年には遺伝子解析を加え、生活習慣病のゲノム疫学をわが国で初めて開始しました。

これまでこの研究で分かったことの一部を紹介します。

- ・糖尿病患者はがん、アルツハイマー型認知症、血管性認知症のリスクが約2倍となる。
- ・糖尿病の境界型（糖尿病の入り口程度）でも肥満、高血圧、脂質異常が加わったメタボリック・シンドロームでは、心筋梗塞や脳梗塞のリスクが5倍以上になる。
- ・早食いする人は、肥満になるリスクが高い。
- ・自分の歯が少ないと認知症のリスクが増加する。
- ・喫煙は胃がんの危険因子。
- ・禁煙すると、特に心疾患や脳卒中の死亡リスクはすぐに減る。

まだまだ多くの研究成果があります。詳しくは久山町

日本21「第3次」が発表されるに至りました。

■「健康日本21」の歴史

我が国における公衆衛生の流れは次の通りです。

1978年(昭和53年)～第1次国民健康づくり

健康診査の充実、市町村保健センター等の整備、保健師などのマンパワーの確保

1988年(昭和63年)～第2次国民健康づくり(アクトイブ80ヘルスプラン)

運動習慣の普及に重点を置いた対策(運動指針の策定、健康増進施設の推進など)

2000年(平成12年)～第3次国民健康づくり(健康日本21 第1次)

一次予防の重視、具体的な目標設定とその評価

2012年(平成24年)～健康日本21 第2次

2023年(令和5年)～健康日本21 第3次

これに先立ち、2015年には国連サミットにおいて「持続可能な達成目標(SDGs)」が国際目標として採択され、その中で「すべての人に健康と福祉を」が目標の一つに取り上げられました。

国際的にも健康づくりの重要性が広く認識されることとなったわけです。

それまでの取り組みの成果として、わが国の健康寿命は2010年の男性70.42歳、女性73.62歳から、2019年には男性72.68歳、女性75.38歳へと延伸しました。

2019年の「健康寿命延伸プラン」では、「自然に健康になれる環境づくり(健康な食事や運動ができる環境、居場所づくりや社会参加)や「行動変容を促す仕掛け(行動経済学の仕組み、インセンティブ)」など新たな手法も活用することが示されています。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機に、「健康格差」が拡大しているとの指摘もあります。これらを踏まえ

たうえで、2023年に健康日本21の第3次の改定が行われました。詳細は「健康日本21 第3次」のホームページに譲りますが、皆さんに関心があると思われる、また多くの人に関係があると思われる主なものを少し拾ってみましょう。

栄養と食生活
・適正体重(BMI) 18.5以上25未満、ただし65歳以上はBMI 20を超え25未満)を維持している人を増やす…2019年度60.3%を2032年度に66%に。
・野菜摂取量の増加…2019

■「健康日本21 第3次」

それまでの取り組みの成果として、わが国の健康寿命は2010年の男性70.42歳、女性73.62歳から、2019年には男性72.68歳、女性75.38歳へと延伸しました。

2019年の「健康寿命延伸プラン」では、「自然に健康になれる環境づくり(健康な食事や運動ができる環境、居場所づくりや社会参加)や「行動変容を促す仕掛け(行動経済学の仕組み、インセンティブ)」など新たな手法も活用することが示されています。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機に、「健康格差」が拡大しているとの指摘もあります。これらを踏まえ

たうえで、2023年に健康日本21の第3次の改定が行われました。詳細は「健康日本21 第3次」のホームページに譲りますが、皆さんに関心があると思われる、また多くの人に関係があると思われる主なものを少し拾ってみましょう。

栄養と食生活
・適正体重(BMI) 18.5以上25未満、ただし65歳以上はBMI 20を超え25未満)を維持している人を増やす…2019年度60.3%を2032年度に66%に。
・野菜摂取量の増加…2019

・運動習慣者の増加…2019年度28.7%を2032年度40%に。ただし、20歳以上64歳未満の男女とも30%、65歳以上は男女とも50%に。

・睡眠
・睡眠で休養がとれている者の増加…2019年度78.3%を2032年度80%に。ただし、20歳以上59歳未満は75%、60歳以上は90%に。

・喫煙率の減少…2019年度54.5%を2032年度60%に。

・歯周病を有する者の減少…2019年度57.2%を2032年度40%に。

・よく噛んで食べることができ

る者の増加…2019年度71.0%を2032年度80%に。

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・よく噛んで食べることができ

る者の増加…2019年度71.0%を2032年度80%に。

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・社会活動を行っている者の増加

・よく噛んで食べることができ

る者の増加…2019年度71.0%を2032年度80%に。

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・社会活動を行っている者の増加

性が83、958人と全体の約88%を占めているそうです。そして、単に生物学的な寿命の延伸だけでなく、健康寿命が延びることが重要です。学問的には117歳が人間の寿命とされていますが、今後どれくらいまで平均寿命、そして健康寿命は延びるのでしょうか。

■お知らせ

最後に少し宣伝です。来たる9月27日(土)14時から16時に、「第16回県民公開医療シンポジウム」がアクロス福岡国際会議場で開催されます。入場は無料で、事前の申し込みは不要です(198名定員)。主催は公益社団法人福岡県病院協会、私はこの組織の総務理事を務めており、今回の企画を担当しました。テーマは「健康で長生きするためのヒントーあなたの体力、睡眠、そして肺炎の予防は？」とし、3人の専門家の先生に講演をお願いしています。面白くてきつと役に立つ内容でお話ししてもらいますので、時間にご都合がつく方はどうぞお誘いあわせの上ご参加ください。

・よく噛んで食べることができ

る者の増加…2019年度71.0%を2032年度80%に。

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・社会活動を行っている者の増加

・低栄養傾向の高齢者の減少

・ロコモティブシンドロームの減少

・社会活動を行っている者の増加

2025年5月30日第1回理事会承認
2025年6月20日第1回評議員会承認

2024年度 決算概要

2024年度は報酬改定年度であり診療報酬で+0.88%、障害福祉で+1.12%の改定が実施され増収に繋がった。更なる増収対策として、リハビリの増員を行い報酬単価の高い脳リハIへの変更を行った。給付金として福岡県物価高騰給付金・福祉介護職員処遇改善臨時特別交付金・勤務環境改善促進費給付金を受け取ることができた。また公益財団法人JKA(競輪とオートレースの補助事業)の助成金の申請が受理され、ひかり棟の特殊浴槽を整備した。経常経費寄附金収入として、遺言状による大口献金が発生したため50周年記念計画積立金を新設して積立を実施した。

人件費については、前年度より人員数は改善しているが定員まで充足しておらず現場の負担が大きい状況は継続している。年度末に給付金に連動した臨時賞与の支給を行った。

事業費については、給食材料費、医薬品費、水道光熱費、消耗器具備品費などが前年度と比較して増加している。

事務費については、修繕費として中長期計画積立金を利用したLED工事で火災通報装置改修を計上しているため増加している。

また障害者相談支援事業・自立支援協議会事務局において5年分の消費税を遡って納付を行ったので租税公課が増加した。

資金収支計算書において、補正予算対比で収入については100.9%、支出については99.9%の執行率であった。

最終の資金収支差額は、基本財産減価償却積立金61,604千円、中長期計画積立金に24,824千円、50周年記念計画251,996千円を積立てを行い、当期資金収支差額が10,474千円となった。

事業活動計算書については、前年対比で収入122.9%、支出については109.5%となり、最終の当期活動増減差額が208,651千円となった。

資金収支計算書

(自) 2024年4月1日 (至) 2025年3月31日

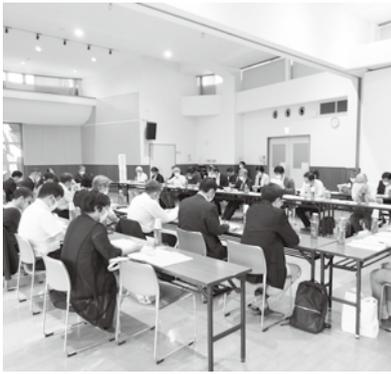
(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(B)-(A)	
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	4,105,000	4,316,079	211,079
		障害福祉サービス等事業収入	591,651,000	600,830,954	9,179,954
		医療事業収入	875,684,000	880,938,587	5,254,587
		経常経費寄附金収入	272,977,000	273,234,944	257,944
		受取利息配当金収入	2,309,000	2,319,396	10,396
		その他の収入	5,225,000	5,358,055	133,055
		事業活動収入計(1)	1,751,951,000	1,766,998,015	15,047,015
	支出	人件費支出	1,068,092,000	1,073,871,014	5,779,014
		事業費支出	189,274,000	185,413,785	△3,860,215
		事務費支出	178,377,000	174,389,747	△3,987,253
事業活動支出計(2)		1,435,743,000	1,433,674,546	△2,068,454	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		316,208,000	333,323,469	17,115,469	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	2,847,000	2,847,000	0
		固定資産売却収入	0	9,200	9,200
		施設整備等収入計(4)	2,847,000	2,856,200	9,200
	支出	固定資産取得支出	16,350,000	16,324,664	△25,336
		施設整備等支出計(5)	16,350,000	16,324,664	△25,336
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△13,503,000	△13,468,464	34,536	
その他の活動による収支	収入	長期貸付金回収収入	0	0	0
		積立資産取崩収入	35,760,000	35,759,900	△100
		その他の活動による収入	0	69,300	69,300
		その他の活動収入計(7)	35,760,000	35,829,200	69,200
	支出	長期貸付金支出	0	0	0
		積立資産支出	338,465,000	338,425,651	△39,349
		その他の活動による支出	0	6,784,495	6,784,495
		その他の活動支出計(8)	338,465,000	345,210,146	6,745,146
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△302,705,000	△309,380,946	△6,675,946	
予備費支出(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	10,474,059	10,474,059	
前期末支払資金残高(12)		479,652,000	479,651,934	△66	
当期末支払資金残高(11)+(12)		479,652,000	490,125,993	10,473,993	

第58回 福岡県重症心身障害施設協議会 報告

センター長／理事 岩永 知秋

福岡県重症心身障害施設協議会は、福岡県の重症心身障害児者施設、13施設（国立病院機構3病院、公法人立施設10施設）および福岡県福祉労働部障がい福祉課の参加を得て、定期的に年2回意見・情報交換などを行う貴重な機会です。今回第58回は2025年6月12日（木）久山療育園にて、午後2時から2時間ほど開催しました。参加施設は13施設、福岡県福祉労働部障がい福祉課からも1名（森川主任主事）のご参加をいただきました。司会はいつものように、国立病院機構福岡病院吉田誠院長と久山療育園の岩永知秋が務めました。



協議会では当園宮崎理事長から、5月22、23日の2日間にわたって長崎市で行われた全国重症心身障害施設協議会の内容と併せて行われた講演やシンポジウムについて詳細に報告されました。シンポジウムでは人材不足（特に介護人材）とその確保対策が取り上げられ、人員不足が全国的な傾向を示していることが伝えられました。次いで福岡県障がい福祉課から医療的ケア児支援施策、レスパイトケアサービスの拡充・利用促進について報告がありました。

その後、国立病院機構の3病院と公法人立の10施設から、それぞれの近況についての報告が続きました。COVID-19が感染症法上の取り扱いが5類になって2年になることから、短期入所の現況と入所時の感染チェック、面会、外出、外泊、実習生やボランティアの受入れなど、多くの施設でほとんど元気に復しつつあることが報告されました。大部分の施設では短期入所の際の感染チェックを中止しており、これらを踏まえ当施設でも短期入所のシステムについて再検討が必要と考えられました。また、人材確保に関して外国人の介護などへの雇用が次第に進んでいる状況が明らかにされました。なお、スタッフの不足のため業務を一時的に縮小している施設もあり、人材不足が深刻なことがわかりました。前回同様障害者虐待防止に関しても、今後の発生を全力で防ぐよう、参加者全員で認識の共有を行いました。最後に重症心身障害福祉協会認定専門看護師制度の現況について、当センター藤島看護部長から報告がありました。

協議会終了後に、全国重症心身障害日中活動支援協議会九州・沖縄ブロック研修会が、来年度（2026年11月頃開催予定）福岡県の当番となることから、担当施設について話し合いを行いました。北九州市立総合療育センター、やまびこ学園、柳川療育センター、生活介護事業所ひなた家、久山療育園の5施設の中から、柳川療育センターに担当をお願いすることになりました。

次回は今年12月11日（木）午後2時から、国立病院機構福岡病院での開催が予定されました。



「今年も届きました。」

今年もロジテム九州さんより献品して頂きました。市中の感染状況も落ち着きを見せていることから、6月13日（金）に地域交流ホールにて贈呈式を行いました。お忙しい中、ロジテム九州の職員の方々にご来園いただき、代表の利用者さんへ品物を手渡ししてくれました。

今回、献品していただいたものは、コンプレッサ式ネブライザーと言って、吸入薬を霧状にして直接気管支に届ける吸入器です。従来、使用していた物は、作動音が大きく、重たい器械でしたが、献品していただいた4台は音も静かで軽く、利用者さんの治療に今まで以上に活躍する事が期待されます。

ロジテム九州さんの理念に『幸運を送る』とありますが、今年も幸運を献品という形で送ってもらい本当にありがとうございます。

（看護部長 藤島信也）



病棟イベント

「ハッピーイースター」

今日は年に一度のイースター。みんな元気いっぱい参加することができました。みんなが大事に持っている卵の中には新人スタッフの名前を隠しています。中には偽物の名前も・・・。見つからないかドキドキですね！

(めぐみ棟 保育士 原田太二)



「お楽しみの喫茶活動」

今回の喫茶テーマは『梅雨』をモチーフにしました。みなさん傘をさして記念撮影。素敵なお顔を撮れましたね。美味しいそうなお菓子、カステラやテリーヌを自分で選んで食べました。皆さんおやつを食べて笑顔も見られました、とても有意義な時間を過ごされていましたね。

次回は8月の予定です。お楽しみに。(ひかり棟 介護福祉士 富田裕規)



おやつ早く食べたいなあ



これで雨が降っても大丈夫だね



仲よしスタッフと笑顔でカチャ



傘きれいだな



どっちも美味しそうだな



お目当てのカステラゲット！！



楽しみにしていたおやつゲット



どれにしようかな？



カステラ頂きました



めぐみ棟より

「今年はガーデニングに挑戦!!」

今年のめぐみ棟はガーデニングに挑戦中! みんなで土を選びスコップでまぜ、しっかりと肥料を入れて準備完了。念願のお花の寄せ植えと、イチゴの苗を18本植えました。

5月の中頃にはたぐさんのイチゴが取れ甘い香りを楽しんで満喫。6月からはトウモロコシと向日葵に挑戦しています。是非見に来てください! (めぐみ棟 保育士 原田太二)

沢山とれたよ



イチゴ姫



おいしそう!



イチゴ get !



イチゴの苗とお花

ひかり棟より

「みんなで鯉のぼりを貼ろう!」

5月は鯉のぼりをひかり棟の入り口に貼りました。色とりどりの鯉のぼりが気持ちよさそうに泳いでます。模様もきれいですよね!! みんなできれいに貼れるかな? ひかり棟の入り口が鯉のぼりでいっぱいです。 (ひかり棟 介護福祉士 富田裕規)



私が作った鯉のぼりはどれでしょう?



ねー見て見て



僕が貼ったんだぞ



どの鯉のぼりも綺麗だね



みんな 見に来てね



鯉のぼりと記念撮影



きれいに貼れたでしょ



みんなで貼ったよ

通所で頑張っています

「通所運動会活動」

今年もやってきました運動会!!
 今回は『みんなで協力して楽しもう!』をテーマに、箱に刺してある棒を引っ張って抜く競技(マジックハンド)、みんなで手をつないで踊る車椅子ダンス(手をつなごう)を楽しみました。

競技では手や足を使って棒を引き抜く真剣な姿や、仲間を応援する多くの笑顔が見られました! みんなで力を合わせて頑張った後は、みんなで輪になって手をつないだ車椅子ダンス!お互いの顔を見ながらのダンスに思わず笑顔がこぼれた運動会になりました!

(通所 保育士 桑原リサ)

慎重に・・・



しっかり握って! それ!



おもわずにっこり



てをつなごう♪



力を入れてよいしょ!



児童発達 宇宙

「宇宙ミニ運動会」

通所「宇宙」は、6月3日(火)と6月5日(木)にミニ運動会を行いました。

火曜日クラスのお子さんは1歳で、初めての運動会。保育士と一緒に大玉転がしとマジックステイックに挑戦しました。大玉転がしは足でキックしながら転がし、マジックステイックは手を動かしながら棒を抜く事が出来ました。すごいね!とたくさん褒められました。



ぎゅっと握って



上手にキック

木曜日クラスの競技は、スカーフ引っ張りゲームと車椅子ダンスでした。手を伸ばしてスカーフを引っ張り、次にスタートする友達のところへ行つてタッチ!3人ともしっかりと取り組む姿がとても頼もしかったです。そして「手をつなごう」の曲で車椅子ダンス♪自分のお父さんやお母さんだけでなく、友達のお父さんやお母さんとも手をつなぐのが嬉しかったり恥ずかしかったりする姿もありましたが、みんなで手をつなぐと温かい気持ちになりました。

来年度の運動会は出来る事がもっと増えているだろうなあといふくらい楽しみです。

(通所 保育士 寺田智加子)



ひっぱれ ひっぱれ!



スカーフとったよ!



木曜日の選手集合



パパと一緒に

児童発達支援事業「宇宙」Instagram

療育の様子をご紹介します。QRコードよりぜひご覧ください



重症者ホームひさやまより

『10周年開設祭』を開催しました。

「開設祭10周年『+α』」

7月1日に重症者ホームひさやまの開設祭が行われました。テーマは『+α（プラスアルファ）』です。

当日の朝を迎え、利用者の皆さん、緊張されている様子もありながら、楽しさもありウキウキされていました。

朝の準備も終わり、いざ本番。まずは、10周年を想うスライドを鑑賞。利用者の皆さんはその間にパフォーマンスの準備です。

自分のパフォーマンスの時間が近づいてくるとやる気スイッチが入り、いい表情をされています。パフォーマンスの内容は、歩行器や介助歩行・立位台・車いす自走などで、日々のリハビリで練習している成果を、利用者の皆さん一人一人が発表しました。

鈴木を来賓の方に配ったリ、保護者の皆さんやお世話になったスタッフを見つけたら指をさしたり、その方のところへ向かっていくなど、ファンサービスもたくさん見せ、見ている皆さんも大盛り上がりでした。

利用者の皆さんがいつも以上の力を発揮し、頑張ってくれたおかげで『感動しました』という声をたくさんいただきました。

次にこれからに向けた思いを宣誓して、見に来ていただいた方々と歌を歌いました。

歌は利用者さんがリクエストしてくれた「手のひらを太陽

に」を会場の皆さんと一緒に歌いました。最後に今までお世話になったスタッフの皆さん・先生方からのコメント写真スライドを全員で鑑賞しました。

利用者の皆さんも懐かしいスタッフの顔をしっかりと観ながら目がウルウルされているようにも感じました。開設祭が終了した時には、皆さん「やりきった」という様子でした。

今回、このような素敵な開設祭に実行委員として参加でき感謝しています。いつもはなかなか見られない利用者の皆さんの表情や姿を近くで見ることができ、すごくうれしく思いました。

（重症者ホーム 介護福祉士 大塚菜奈）



宣誓のことば



てのひらをたいように♪



チケット
お持ちでしょうか？



懐かしい仲間からの
メッセージ



ファンサービス



お母さん、見てる？



懐かしの
メンバーに
見守られ



初代施設長より



「たくさんの人に支えられて」

今回の開設祭を開催するにあたり、十年を振り返ることから始めました。その中で生まれたテーマが「+α（プラスアルファ）」でした。

今回の開設祭のテーマ「+α」のコンセプト紹介の全文をつづります。

『+α それは希望です』

10年前のことを想う
まわりを見わたしながら
ゆっくり休んでもいい
立ち止まったからこそ
また前へ進むことができる

10年後のことを想う
日常にそっと加わる小さな
「+α」

何気ない瞬間に心がふわっと動き出すような変化 わたしたちは 社会や人々のなかで ともに生き ともに支え 一番近くで支えてくれる方々を想いながら つづく道ので感謝を伝えていきます』

私たちは、支える側ではなく、支えられている。保護者の皆さん、職員の皆さん、地域の皆さん、ボランティアの皆さん、ホームに関わる皆さんの方々に支えられ、入居者と共に生きている。そう思えた一日でした。

『私たちは見えないものに目を注ぐ
見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くのである』

園の創立聖句が頭に浮かびました。

見えないものは永遠に続くのだと、心からそう思えた一日でした。

（重症者ホーム
療育課長 陣内晶子）

暑中お見舞い 申し上げます

暑い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか？
新型コロナウイルス感染症が感染法上「5類」に引き下げられて2年が経ち感染対策も少しずつ緩和できてきていますが、利用者さんとの面会やふれあいについてはまだ慎重に行っている状況があります。そこで今年も久山療育園の日常をお届けしたく利用者さん達の日常の一部を切り取りました。どうぞご覧ください。



お散歩気持ちいいね



お花を植えたよ。



めぐみ棟



凄腕釣り師



消防車の前でパチリ！



喫茶活動



もうこんなにお花咲いてる！！



外は気持ちいいね



ひかり棟



最高の笑顔



鯉のぼり作ったぞ



お散歩うれしいなあ

通所



手洗って気持ちいい♪



にっこり笑ってハイチーズ！



自己紹介活動



気持ちいい♪

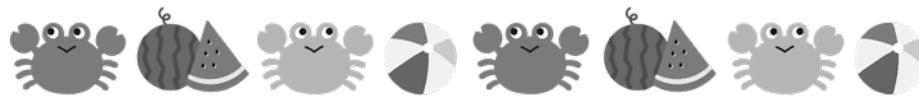


ぼかぼかあったか^^



お外は気持ちいい♪

そら 宇宙



重症者ホームひさやま



トマトの苗植え♪



外気浴気持ちいいな♪



ご当地
グルメフェア♪



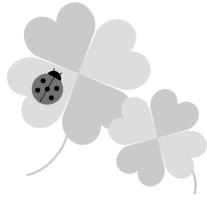
イースターエッグゲットだぜ！



和臼バプテスト教会
牧師 城前和徳

私は、80歳になつたら運転免許を返上することに決めており、2023年に車を3年リースに切り替えました。その思いがあつたからかも分かりませんが、一つの詩集を思い出しました。盛岡時代のK姉の詩集の一部です。

K姉が、幼稚園でゴミ出し当番の時、大げがをして、約一ヶ月の入院をされた時に作られた詩で、「人生とは、命とは、死とは、信仰とは、」を深く考えさせられた毎日、その心をそのまま詩にしました、と言っておられた詩です。



「初心者マークの歩行」

スローモーションで、一步一步の前進。カーブは特に注意の段差のある所は、スリッパしないように、呼吸を整えてからスリッパしないように、平衡を失わないように、バックは充分、気をつけて

まつば杖の、初心者マークの歩行です。悪い方の左足は、絶対つかないように、右足に、ずっしりと、体重が乗つかつて、疲れがひどいので、休み休みの前進です

私は、まもなく初心者マークをはずせませんが、なかなかはずせない人や、ずっと、そのままの人もいます

初心者マークが、はずせるように、祈りますが、体の不自由さよりも、何よりも、心の不自由さから解放されますように、イエスさまのみ名によつて、祈ります

私自身も、自らの心の不自由さから解放されますように祈りたいものです。

ミットレーベン・ネットワークより

「2024年度2,358,070円を献金」



いつも重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」の活動にご協力をいただき有難うございます。昨年度は久山療育園に前年度とほぼ同額の2,358,070円を献金することが出来ました。これまでも度々言及して来ましたが、2020年に始まるコロナの世界的流行以後、それを必要とする方々に寄り添うボランティア活動は苦戦を強いられています。私たちの活動の原型は、コロナ以前に出来たものであるからです。そういう意味で、もう一度原点に戻つて私たちの活動を見つめ直す必要があるのではないかと思つています。2025年度の活動へのご理解とご協力をよろしく願ひします。「ミットレーベン・ネットワーク」
会長 伊原幹治

2025年度 久山療育園 開園祭の お知らせ

今年も開園祭の開催に向けて6月23日(月)に「第1回開園祭実行委員会」を行い内容について検討いたしました。

9月23日(火・祝)10時～14時に開催し、感染対策に配慮しながら、各機関や地域の皆さんに重症児者の皆さんと触れ合つて頂けるように「公開療育」や「ふれあい活動」を含めた内容となりました。昼食の販売も検討していく予定です。

詳細につきましては、第2回開園祭実行委員会以降、協議・決定して参ります。

つきましては、関係者の皆さま方には後日ご案内を差し上げますので、ご確認くださいませよう宜しくお願ひ申し上げます。

バプテスト心身障害児(者)を守る会

理事 長 宮崎 信義
久山療育園重症児者医療療育センター

センター長 岩永 知秋

ご協力ありがとうございました

(2025年3月1日〜5月31日) 敬称略

【法人】

一般献金

石垣幸枝、磯寄佳果、香住ヶ丘バプテス...

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、久山療育園献金箱...

【施設】

一般献金

岩永知秋、草場年子、古賀和男、堺麗子...

(以上1, 125, 500円)

献品

後山敦子(服布地)、井上ひろみ(ガラス皿)...

献金申込先

- 1.《郵送》 社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会...



クレジット献金は こちら→

メモ帳

- 【4月】1日〜2日 新人職員オリエンテーション...

職員の異動

(2025/4/26/30)

【採用】

4/14付 西村 美和(介護福祉士)

5/1付 吉松 あゆみ(療育員)

6/1付 船津 美和(介護福祉士)

【退職】

4/13付 内田 茉洗(看護師)

4/30付 池田 七瀬(介護福祉士)

5/15付 中山 加代子(調理員/栄養士)

5/30付 塩井 貴文(介護福祉士)

6/30付 大浦 真妃(保育士)

ボランティアだより

「ボランティア懇談会のお知らせ」

新型コロナウイルス感染症も5類へと移行し、早くも2年が経過しました。

久山療育園におきましても、感染対策の緩和に向けて動き出しています。利用者ご家族の面会の制限緩和や、利用者の外出等も行うことが出来るようになってきました。

これまで制限があるなか、ボランティアの皆さまには、活動の受け入れ中止や、半日のみの活動等、大変ご迷惑をおかけいたしました。

今年度は、ボランティアの皆さまに感謝の意味も含め『ボランティア懇談会』を開催いたします。

以前の懇談会は、年に1回実施し、各曜日の代表者の方々に集まっていたのですが、今年度は各曜日のボランティア活動の日に開催します。それぞれ皆さまに無理なく参加していただき、感謝の意をお伝えする場としながら、職員との交流も検討し、つながりを深めていけたらと考えています。

第1回目は7月16日(水)

【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールがございます。

「興味があるけど、どんなことするのか心配…」
「行ってみたいけど、手続きは？」など、いつでもご質問いただけるようになっています。

お気軽にご利用ください。

bora@hisayama-smid.jp



島津洋昭
(ボランティア委員長)

歩 行 器

5月に日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会に出席致しました。ここで、厚生労働省から障害保健福祉施策の動向について、1000頁ほどの資料に添って説明がありました。注目すべきは資料で何度も出てくる「地域移行の推進」でした。現在推進中の障害者施設から地域に生活拠点を移す(戻す)取り組みが、2025年度までは努力義務ですが、2026年度からは義務化されることとです。地域移行等の意思確認マニュアルの作成も進められており、数値目標(6%以上の地域生活へ移行、施設入所者数5%以上削減など)も掲げている状況です。重度心身障害児者の入所施設である久山療育園は、療養施設との位置づけで、これまで地域移行の検討から外れていました。が、重症心身障害者の地域生活基盤と施設の役割という点で、これから先、無関係とはいかない様子が伺えます。今後、次期法改正に向けた施策の動向から目が外せない状況となっております。

また、協会理事長の報告で、全国的に見て、人口減少、出生率の低下により、地域によっては入所対象者が減り、施設の入所者が定員割れを始めているとの事でした。入所対象となる人数と施設定員の割合の実態は、都道府県別に差があり、福岡県は今のところ定員割れはないとされていますが、県内にも入所定員を削減した施設もあるなど、地域によって差があり、地域における人口動態を前提に施設運営・展開を考えないといけない時代になっていきます。

(T・N)

職員募集

【専門職種】

●介護福祉士・保育士・介護職員
実践者研修及び初任者研修修了者
(重症心身障害児者への日常生活の介助業務 食事介助、入浴介助、療育活動等)

●調理員(調理師・栄養士)(重症心身障害児者へ入所・通所利用者への食事提供)

【その他の職種】

●日常生活補助業務(洗い物、リネンの片付け、利用者の衣類の片付け、日常用品の後片付け、居室清掃、ベッド寝具整頓など)

【雇用形態】

「正規職員」及び「パートタイム契約職員」

【受付】久山療育園

事務部担当課長 波田(ハタ)
TEL(0922)976-2280-1

※詳しくは、ホームページまたはQRコードをご覧ください。

重症心身障害施設
久山療育園ホームページ
<http://hisayama-smid.jp/>



求人情報